

イデックスオイルレポート ~For a month~

2021年12月1日作成 (株)新出光

【月次概況】

●第1週、11/5のWTI原油は、先週比2.3ドル安の81.27ドルとなりました。米エネルギー情報局が発表した10月29日までの米原油在庫は前週比330万バレル増、ガソリン在庫は、150万バレル減、ディスティレート(留出分)在庫は220万バレル増となり予想を上回る原油在庫の増加を受けて供給逼迫懸念が後退し原油は売られました。OPECプラスは、4日に行われた閣僚級会合で、12月以降の生産計画に関し産油量を日量40万バレルずつ引き上げる従来の計画を維持することを決定しました。しかしサウジアラビア国営テレビが同国の産油量について12月に新型コロナウイルス流行以来初めて日量1000万バレルを超える見通しと報じたことがきっかけとなり原油は売られ78.81ドルと約1か月ぶりの安値水準となりました。5日、米労働省が公表した10月の雇用統計では、景気動向を反映する非農業部門就業者数が前月比53万1000人増と、市場予想の45万人増を大幅に上回りました。米雇用の堅調な回復が示され景気の先行きに期待が広がり原油は買われました。

●第2週、週末11/12のWTI原油は、先週比0.48ドル安の80.79ドルとなりました。10日米労働省が発表した10月の消費者物価指数(CPI)の上昇率は前年同月比6.2%と約31年ぶりの高水準となりました。これを受けバイデン米大統領は物価高の主因になっているエネルギーコストについて一段の下落を図る措置の検討を指示したことを明らかにしました。エネルギーコストの抑制措置として戦略備蓄石油(SPR)の追加放出に踏み切るとの観測や米連邦準備制度理事会(FRB)が早期利上げに動くとの観測がくすぶり原油は売られました。また石油輸出国機構(OPEC)の月報では、今年第4四半期の需要見通しが下方修正されました。

●第3週、週末11/19のWTI原油は、先週比4.69ドル安の76.10ドルとなりました。欧州で新型コロナの感染が急拡大しドイツとオーストリアでは、1日の新規感染者数が過去最多を記録しました。ドイツは、新型コロナ関連の各種規制の大幅強化で合意し、オーストリアは、22日からロックダウン(都市封鎖)を再開することとなりました。また米国をはじめとする主要消費国が石油備蓄放出をめぐる協調行動をとる可能性があるとの警戒感も相場を下押ししました。

●第4週、週末11/26のWTI原油は、先週比7.95ドル安の68.15ドルとなりました。米国は、日本や中国、インド、韓国、英国と強調し石油備蓄を放出すると発表しましたが、放出規模は少なく効果は限定的と見られています。26日、南アフリカなどで見つかった新型コロナウイルスの変異種オミクロン株が経済活動の停滞や燃料需要の鈍化を招く恐れがあるとの懸念が高まり、この日の原油相場は世界的な株安連鎖と歩調を合わせる形で急落しました。各国・地域は入国制限など規制強化に踏み切る方針を表明しており景気回復の遅れに対する警戒感も広がっています。12月1日2日に延期されたOPEC会合でどう対応するか注目が集まっています。

11月平均	WTI原油	78.65ドル	前月比	▲2.57ドル	為替 1ドル	115.14円	前月差	1.03円
-------	-------	---------	-----	---------	--------	---------	-----	-------

日付	変動幅	変動幅
11/1~11/3	+0.5	+0.5
11/4~11/10	-1.5	-1.5
11/11~11/17	-0.5	-0.5
11/18~11/24	±0	±0
11/25~11/30	-1.0	-1.0

メニュー価格推移 平水湾内T/S持ち届け (サイト60日)	ENEOS LS船用燃料油基準価格		
	0.5HPP	ENEOS LS船用燃料油基準価格	
2021年7-9月C重油決定価格	63,070	65,070	(63,070(メニュー)+2,000(プレミアム))
2021年10-12月C重油決定価格	66,800	69,340	(66,800(メニュー)+2,540(プレミアム))
2021年10-12月C重油決定価格 決定価格7-9月比			(メニュー)+2,540(プレミアム)

内航燃料油価格推移	適合油価格	
	A重油	
2021年7-9月C重油決定価格	69,400	73,300
2021年10-12月C重油決定価格	74,300	
2021年10-12月C重油決定価格 決定価格7-9月比		

CIF価格推移	年/月	9折速報	原油CIF価格	通関CIF	為替レート	原油CIF価格
			円/kl	ドル/bbl	円/ドル	前月比
	21/10	9折速報	53,824	76.81	110.40	2,815
	21/11	最終予測	59,748	83.38	113.92	5,924
	21/12	展望	59,196	84.78	111.00	-552
	22/1	展望	59,544	85.67	110.50	348

【次世代エネルギー】<日本初・商用トラック向けバイオ燃料の常設給油施設開設・今後全国展開を目指す>

伊藤忠商事は、伊藤忠エネクス、東部ネットワークとともに、次世代バイオディーゼル燃料「リニューアブルディーゼル」の商用運送車向け給油施設の運用を開始しました。今回販売されるリニューアブルディーゼルはフィンランド・NESTE社のもので、食品競合のない廃食油や動物油などを原料とし、ライフサイクルアセスメントベースでの温室効果ガス(GHG)排出量で石油由来軽油比約90%削減を実現します。主に輸送用トラック・バスなどで、軽油に代わる燃料として使用されています。既存の車両・給油関連施設をそのまま利用することが可能な「ドロップイン」燃料としてすでに欧米を中心に広く流通実績があります。伊藤忠商事は、NESTE社と連携し、陸上輸送分野でのリニューアブル燃料ビジネスの展開に向けた取り組みを進めています。これまでは、顧客に配送して給油を行っていましたが、新たに東部ネットワークの東日本エリア最大輸送基地である海老名営業所の地下タンクを利用した給油施設を開設しました。これにより、周囲に製造工場/物流拠点を持つ企業が給油施設で直接給油することが可能となり、利便性が向上しました。

[出典①<https://www.itcenex.com/ja/news/2021/20211101.html> ②<https://www.kankyo-business.jp/news/>]

【12月価格変動要因】

●需要面: 人の移動とともに需要は回復傾向にありましたが、南アフリカ発の変異種オミクロン株の影響で再び国境をまたぐ移動制限がかかり始めました。経済活動の停滞や需要回復の遅れを招くなど石油需要の下振れは避けられず、航空機燃料需要を中心に下振れする可能性があります。

●供給面: OPECプラスが、このまま毎月日量40万バレルの増産ペースを維持すると来年1~3月に供給過剰になり原油価格が下落する可能性があります。しかし12/2の会合で消費国による戦略備蓄石油(SPR)の放出や新型コロナウイルス変異種オミクロン株の感染拡大を考慮し減産を決定すれば原油価格は反転し上昇の可能性もあります。

●在庫面: 米国の原油在庫は、5年平均を下回り推移していましたが、バイデン政権のSPR放出によって5年平均レベルまで在庫が増加する可能性があります。しかし製油所の稼働率が上がっているにもかかわらず製品在庫が低水準に落ち込んだままなのは、価格の上昇要因になりえます。

●地政学: ロシアがウクライナへ侵攻する可能性が浮上しています。原油そのものの需要に対する影響は限られていますが、ウクライナを通る欧州向けのガスパイプラインに何かあれば原油もつれ高になる可能性があります。

<12月価格見通し> (単位: US/bbl)

	Brent	WTI
High	83	80
Average	79	76
Low	75	72

日付	国	12月経済指標カレンダー	日付	国	12月経済指標カレンダー
1	米	11月ADP雇用統計	15	米	11月小売売上高
1	米	11月ISM製造業景況指数	15	米	米連邦公開市場委員会(FOMC)終了後政策金利発表
1	米	パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長発言	15	米	パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長定例記者会見
3	米	11月非農業部門雇用者数変化	16	欧	欧州中央銀行(ECB)政策金利
3	米	11月失業率	16	欧	ラガルド欧州中央銀行(ECB)総裁、定例記者会見
3	米	11月平均時給	17	欧	11月消費者物価指数(HICP、改定値)
3	米	11月ISM非製造業景況指数	22	米	7-9月期 四半期実質国内総生産(GDP、確定値)
7	欧	7-9月期 四半期域内総生産(GDP、確定値)	23	米	11月個人消費支出(PCEデフレーター)
10	米	11月消費者物価指数(CPI)	23	米	新築住宅販売件数

当レポートは、情報提供のみを目的としておりますのでお取引の判断については、御自身で行って頂くようお願い致します。